

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成21年2月13日
【四半期会計期間】	第61期第3四半期 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)
【会社名】	ティアック株式会社
【英訳名】	TEAC CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 英 裕 治
【本店の所在の場所】	東京都多摩市落合一丁目47番地
【電話番号】	042-356-9116
【事務連絡者氏名】	取締役財務部長 野 村 佳 秀
【最寄りの連絡場所】	東京都多摩市落合一丁目47番地
【電話番号】	042-356-9116
【事務連絡者氏名】	取締役財務部長 野 村 佳 秀
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所  (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次	第61期 第3四半期連結 累計期間	第61期 第3四半期連結 会計期間	第60期
会計期間	自 平成20年 4月1日 至 平成20年 12月31日	自 平成20年 10月1日 至 平成20年 12月31日	自 平成19年 4月1日 至 平成20年 3月31日
売上高 (百万円)	40,725	11,867	61,862
経常利益又は 経常損失(△) (百万円)	△7	△594	1,307
四半期(当期)純利益又 は純損失(△) (百万円)	△77	△220	1,332
純資産額 (百万円)	—	5,253	6,365
総資産額 (百万円)	—	27,476	31,199
1株当たり純資産額 (円)	—	18.04	12.54
1株当たり四半期 (当期)純利益又は 純損失(△) (円)	△0.27	△0.76	5.59
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	—	—	4.61
自己資本比率 (%)	—	18.9	20.3
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	292	—	118
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△1,096	—	16
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	442	—	△2,895
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	—	5,799	6,027
従業員数 (名)	—	3,418	4,391

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
2 第61期第3四半期連結累計(会計)期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、1株当たり四半期純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間における、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容の重要な変更は以下のとおりです。

### 事業内容の重要な変更（事業区分の変更）

従来、事業を周辺機器、コンシューマ機器、情報機器、その他の4区分としておりましたが、第1四半期連結会計期間より、コンシューマ機器事業から、音楽制作オーディオ機器（TASCAMブランド）事業を分離し、従来周辺機器事業に含まれていた特殊イヤホン事業を統合し、プロフェッショナル機器事業部として独立した事業といたしました。当社は「中期事業計画“TEAC B1 Project 2010”」において、コンシューマ機器事業を当社事業の柱と位置付けておりますが、その中でも音楽制作オーディオ機器（TASCAMブランド）は、安定収益が望める分野であります。今後中期事業計画に基づき、人的リソース等の経営資源を重点的に配分し、収益力の強化を図るために、平成20年6月1日付けにて組織変更を行い独立した事業部とするものであり、その経営成績もより明確化するために、事業セグメント区分も変更するものであります。

### 主な関係会社（連結子会社）

ティアック アメリカ INC.、台湾ティアック 有限公司、ティアック カナダ LTD.、ティアック UK LTD.、ティアック ヨーロッパ GmbH、ティアック オーディオ(チャイナ)CO.,LTD.、ティアック メキシコ S.A.de C.V.、東莞ティアック エレクトロニクスCO.,LTD.、(株)セレパス、MTS(株)

事業区分の変更後の事業内容と当社及び関係会社の位置付けは以下のとおりであり、事業の区分は（セグメント情報）「事業の種類別セグメント情報」に記載されている事業区分と同一であります。

区分	主要製品	主要な会社
周辺機器事業	CD-ROMドライブ、DVD-ROMドライブ、CD-R/RW・DVD-ROMコンビネーションドライブ、DVD-R/RW/RAMドライブ、フロッピーディスクドライブ、カードリーダー、ディスクパブリッシング機器	当社、ティアック アメリカ INC.、台湾ティアック 有限公司、富士吉田ティアック(株)、ティアック ヨーロッパ GmbH、ティアック エレクトロニクス(M)Sdn. Bhd.、ティアック シンガポール PTE LTD.、P.T.ティアック エレクトロニクス インドネシア、(株)セレパス、MTS(株) (会社総数10社)
コンシューマ機器事業	iPod接続対応オーディオ機器、SACDプレーヤー、CDレコーダー/プレーヤー、DVDプレーヤー	当社、ティアック アメリカ INC.、ティアック カナダ LTD.、富士吉田ティアック(株)、ティアック UK LTD.、ティアック ヨーロッパ GmbH、ティアック メキシコ S.A.de C.V.、(株)セレパス、MTS(株)、エソテリック(株) (会社総数10社)
プロフェッショナル機器事業	マルチトラックレコーダー、PCインターフェース/コントローラー、ミキサー、ギターアンプ、メモリーレコーダー/プレーヤー	当社、ティアック アメリカ INC.、台湾ティアック 有限公司、ティアック カナダ LTD.、ティアック UK LTD.、ティアック ヨーロッパ GmbH、ティアック オーディオ(チャイナ)CO.,LTD.、ティアック メキシコ S.A.de C.V.、東莞ティアック エレクトロニクスCO.,LTD.、(株)セレパス、MTS(株) (会社総数11社)
情報機器事業	航空機搭載用記録再生機器、トランスデューサー、データレコーダー、医用画像記録機器、通話録音機器	当社、(株)セレパス、富士吉田ティアック(株)、MTS(株) (会社総数4社)
その他	業務パッケージソフトウェア、介護支援個別ケアシステム	(株)ティアックシステムクリエイト (会社総数1社)

### 3 【関係会社の状況】

㈱ティアック エソテリック カンパニーは、平成20年10月1日よりエソテリック㈱に社名変更しております。

### 4 【従業員の状況】

#### (1) 連結会社の状況

平成20年12月31日現在

従業員数(名)	3,418
---------	-------

(注) 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除いた就業人員であります。  
なお、臨時従業員の記載は省略しております。  
従業員数が当第3四半期連結会計期間において352人減少しておりますが、その主な理由は、生産の減少に伴う人員の減少によるものであります。

#### (2) 提出会社の状況

平成20年12月31日現在

従業員数(名)	458
---------	-----

(注) 従業員数は、当社から他社への出向者を除いた就業人員であります。  
なお、臨時従業員の記載は省略しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 生産実績

当第3四半期連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	生産高(百万円)
周辺機器事業	4,190
コンシューマ機器事業	115
プロフェッショナル機器事業	877
情報機器事業	479
その他	80
合計	5,743

- (注) 1 金額は、製造原価によっております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (2) 受注状況

当社グループの製品は、原則として需要見込生産であり、該当事項はありません。

#### (3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高(百万円)
周辺機器事業	6,686
コンシューマ機器事業	2,025
プロフェッショナル機器事業	2,056
情報機器事業	924
その他	173
合計	11,867

- (注) 1 セグメント間取引に関しては、相殺消去しております。  
2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	当第3四半期連結会計期間	
	販売高(百万円)	割合(%)
Dell Inc.	1,793	15.1

- 3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

## 3 【財政状態及び経営成績の分析】

### (1) 経営成績の分析

当第3四半期連結会計期間のわが国経済は、第2四半期連結会計期間後半から急速に景気が減速し、設備投資の減少、輸出の大幅な減少にみまわれており、欧米についても金融危機の影響により景気は後退、アジアも一段と景気減速しています。また、先行きも金融危機の影響によりさらなる下振れのリスクを内在しており、為替も急速に大幅な円高傾向に変わり、第4四半期連結会計期間以降当社を取り巻く環境も厳しいものとなることが懸念されます。

当第3四半期連結累計期間は、第1四半期連結会計期間は米ドル、ユーロとも概ね円安に推移したものの、第2四半期連結会計期間後半以降はユーロを中心に大幅に円高に推移しました。全体として、景気減速に伴う需要の減少と大幅な円高が第1四半期および第2四半期連結会計期間と比較して売上高減少の主要因となりました。

当第3四半期連結会計期間の売上高は11,867百万円となり、営業利益についても景気減速の影響と円高が大幅に進んだことから186百万円となりました。当社は海外生産の比率が高く米ドルに対する円高の影響は受けにくくなっていますが、当第3四半期連結会計期間はユーロが大幅に安くなったことから、第1四半期および第2四半期連結会計期間と比較して営業利益の減少要因となりました。当第3四半期連結会計期間は、急速な円高の影響、コンシューマ機器事業を中心とした営業利益の減少に加え、為替差損が611百万円発生したことにより、経常損失は594百万円となりました。当第3四半期連結会計期間は、海外租税公課戻入益があり、過年度特許権実施料が減少したものの、経常損益が悪化し、投資有価証券評価損が発生したことにより、四半期純損失は220百万円となりました。

#### ① 事業の種類別セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

##### 1) 周辺機器事業

周辺機器事業の当第3四半期連結会計期間の売上高は、6,686百万円となり、営業利益は105百万円となりました。第2四半期連結会計期間まで成長を続けていたパーソナルコンピュータ（PC）市場は、当第3四半期連結会計期間には金融危機に端を発する世界同時不況による消費の冷え込みの影響で、減速する結果となりました。その中で、当社は光ディスクドライブ分野にてPC市場の減速の影響を受け、第1四半期および第2四半期連結会計期間と比較して販売金額は減少しました。利益面ではPC用ドライブの中でも収益性の高い製品の販売を進めたこと、また再生系ドライブを中心とした産業用・サーバー用途などの収益性を確保できる販売に注力したこと等により、第2四半期連結会計期間までは好調に推移しましたが、当第3四半期連結会計期間は、PC市場の減速により営業利益は減少しました。また、立ち上がりが遅れていたディスクパブリッシング分野も、当第3四半期連結会計期間には円高の影響を受け売上高、営業利益とも減少しました。

##### 2) コンシューマ機器事業

コンシューマ機器事業では、当第3四半期連結会計期間の売上高は2,025百万円となり、営業利益は50百万円となりました。一般AV機器分野（TEACブランド）は、第1四半期および第2四半期連結会計期間は北米でのiPod関連のオーディオシステム等の売上高が景気減速の影響および円高により低調に推移しました。例年第3四半期連結会計期間に販売が集中することから、第3四半期連結会計期間は第1四半期および第2四半期連結会計期間と比較して売上高は増加し、欧州向け販売へのユーロ安の影響を受けたものの営業利益も増加しました。高級AV機器分野（ESOTERICブランド）は、景気減速の影響を受け、国内市場の高額品を中心とした市場、また北米を中心に海外も不振が続いていますが、当第3四半期連結会計期間は経費等のコスト削減効果もあり、コンシューマ機器事業全体では営業黒字を確保しました。

##### 3) プロフェッショナル機器事業

プロフェッショナル機器事業では、当第3四半期連結会計期間の売上高は2,056百万円となり、営業利益は312百万円となりました。音楽制作用機器分野（TASCAMブランド）は、円高の影響もあり第1四半期および第2四半期連結会計期間と比較して売上高は減少したものの、景気減速の環境下、デジタルマルチトラックレコーダーやポータブルデジタルレコーダーの新製品を中心に、堅調に推移しました。また、生産が海外であることから、ユーロに対する円高の影響はあったものの、米ドルに対する円高の影響は少なく、利益面においても堅調に推移しました。

#### 4) 情報機器事業

情報機器事業では、当第3四半期連結会計期間の売上高は924百万円となり、営業利益は159百万円となりました。当第3四半期連結会計期間は、航空機搭載用記録再生機器が、円高および景気減速の影響により低調に推移しました。航空機搭載用記録再生機器以外の情報機器製品は、主に国内市場向けであることから円高の影響はほとんどありませんが、自動車、半導体産業を中心に設備投資が落ち込んだことから計測機器やトランスデューサー関連商品では売上高は低調に推移しました。しかし医用画像記録機器、通話録音機器は大幅な減少を回避出来たこと、また、コストダウン効果もあり、全体として第1四半期および第2四半期連結会計期間と比較して売上高は減少したものの、営業利益は堅調に推移しました。

#### 5) その他事業

その他事業では、当第3四半期連結会計期間の売上高は173百万円となり、営業損失は42百万円となりました。当第3四半期連結会計期間は、介護支援個別ケアシステム事業の導入が遅れていること、自社パッケージソフトウェアの受注が減少していることにより営業損失となりました。

### ② 所在地別セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### 1) 日本

日本は、主として米国からアジア（日本扱い）に調達部門が移行した周辺機器の主要得意先への売上高がPC市場の減速の影響により減少したことから、当第3四半期連結会計期間の売上高は5,555百万円となり、営業利益は528百万円となりました。

#### 2) 米大陸

米大陸は、景気減速の影響により低調であったコンシューマ機器のiPod関連機器の売上高が、第1四半期および第2四半期連結会計期間と比較して当第3四半期連結会計期間には増加したものの、周辺機器の売上が減少したため、売上高は3,282百万円、営業利益は69百万円となりました。

#### 3) 欧州

欧州は、主としてドイツにおいて周辺機器の売上高が減少したこと、またユーロの下落と景気減速の影響を受け、当第3四半期連結会計期間の売上高は1,825百万円となり、営業利益は53百万円となりました。

#### 4) アジア他

アジア他は、主としてインドネシアと台湾の周辺機器の売上高が減少したことから、当第3四半期連結会計期間の売上高は1,204百万円となり、営業損失は66百万円となりました。

### (2) 財政状態の分析

#### (資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、27,476百万円と前連結会計年度末と比較して3,722百万円減少しました。主な増減は、受取手形及び売掛金で回収が進んだことと売掛金の流動化を進めたことによる減少4,493百万円、第4四半期連結会計期間の販売に向けてのたな卸資産の増加896百万円であります。

#### (負債)

負債は、22,223百万円と前連結会計年度末と比較して2,611百万円減少しました。主な増減は、買掛金の減少1,702百万円、退職給付引当金の減少503百万円、賞与引当金の減少317百万円であります。借入金は短期が減少し長期（1年内返済予定を含む）が増加していますが、純額では176百万円の増加となっています。

#### (純資産)

純資産は、前連結会計年度末と比較して四半期純損失等の計上により利益剰余金が76百万円減少し、為替の円高による為替換算調整勘定が1,057百万円減少したことにより、1,111百万円減少し、5,253百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、第2四半期連結会計期間末に比べて233百万円増加し、5,799百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結会計期間における営業活動の結果得られた資金は、347百万円のマイナスとなりました。主な内訳は、プラス要因として売上債権の減少額2,475百万円、マイナス要因として税金等調整前四半期純損失266百万円、たな卸資産の増加額887百万円、仕入債務の減少額1,348百万円であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結会計期間における投資活動の結果得られた資金は、146百万円のマイナスとなりました。主な内訳は、有形固定資産の取得による支出140百万円であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結会計期間における財務活動の結果得られた資金は、776百万円のプラスとなりました。主な内訳は、短期借入れによる収入214百万円、短期借入金の返済による支出447百万円、長期借入れによる収入1,021百万円であります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間においては、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結会計期間の研究開発費の総額は1,490百万円であります。

### 第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間において、第2四半期連結会計期間末に計画中であった重要な設備の新設、除却等について、重要な変更並びに重要な設備計画の完了はありません。

また、当第3四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	400,000,000
計	400,000,000

##### ② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成20年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成21年2月13日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	289,317,134	289,317,134	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 1,000株
計	289,317,134	289,317,134	—	—

#### (2) 【新株予約権等の状況】

①会社法第238条第1項および第2項ならびに第240条第1項の規定に基づき、取締役に対するストックオプションとして新株予約権を発行しております。

	第3四半期会計期間末現在 (平成20年12月31日)
新株予約権の数(個)	700(注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 単元株式数 1,000株
新株予約権の目的となる株式の数(株)	700,000(注)2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1個当たり133,000円 (1株当たり133円)(注)3
新株予約権の行使期間(注)4	平成21年6月16日から 平成23年8月31日まで
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 133 資本組入額 67(注)5
新株予約権の行使の条件	新株予約権の割り当てを受けたものは、権利行使時においても、当社の役員、従業員等の地位にあることを要する。 その他の条件は、当社と新株予約権の割り当てを受けたものとの間で締結した「新株予約権割当契約書」で定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)6
新株予約権の取得条項に関する事項	(注)7

②会社法第236条第1項および第238条第1項の規定に基づき、執行役員に対するストックオプションとして新株予約権を発行しております。

	第3四半期会計期間末現在 (平成20年12月31日)
新株予約権の数(個)	100 (注) 1
新株予約権のうち自己新株予約権の数	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 単元株式数 1,000株
新株予約権の目的となる株式の数(株)	100,000 (注) 2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1個当たり133,000円 (1株当たり133円) (注) 3
新株予約権の行使期間 (注) 4	平成21年6月16日から 平成23年8月31日まで
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 133 資本組入額 67 (注) 5
新株予約権の行使の条件	新株予約権の割り当てを受けたものは、権利行使時においても、当社の役員、従業員等の地位にあることを要する。 その他の条件は、当社と新株予約権の割り当てを受けたものとの間で締結した「新株予約権割当契約書」で定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 6
新株予約権の取得条項に関する事項	(注) 7

(注) 1 新株予約権1個につき目的となる株式数は1,000株である。

2 ①取締役の地位において付与された1名(150,000株)は、現在顧問に就任しております。

②執行役員の地位において付与された1名(50,000株)は、現在取締役役に就任しております。

3 当社普通株式につき、次の①または②の事由が生ずる場合、行使価額をそれぞれ次に定める算式(以下「行使価額調整式」という。)により調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げるものとする。

① 株式分割または株式併合を行う場合

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

② 時価を下回る価額で、新株式の発行または自己株式の処分を行う場合(会社法第194条の規定(単元未満株主による単元未満株式売渡請求)に基づく自己株式の売渡し、当社普通株式に転換される証券もしくは転換できる証券の転換、または当社普通株式の交付を請求できる新株予約権(新株予約権付社債に付されたものを含む。)の行使による場合を除く。)

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

上記①および②に定める場合の他、割当日後、他の種類株式の普通株主への無償割当て、他の会社の株式の普通株主への配当を行う場合等、行使価額の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、かかる割当てまたは配当等の条件等を勘案の上、合理的な範囲で行使価額を調整するものとする。

4 発行決議の範囲内において「新株予約権割当契約書」で定める行使期間を記載している。

5 (1) 募集新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第40条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げるものとする。

(2) 募集新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記(1)記載の資本金等増加限度額から上記(1)に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

## 6 組織再編成行為時の取扱い

当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転（以上を総称して以下「組織再編成行為」という。）をする場合において、組織再編成行為の効力発生の時点において残存する募集新株予約権（以下「残存新株予約権」という。）の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下「再編成対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は、消滅し、再編成対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の条件に沿って再編成対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

### (1) 交付する再編成対象会社の新株予約権の数

残存新株予約権の新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。

### (2) 新株予約権の目的である再編成対象会社の株式の種類

再編成対象会社の普通株式とする。

### (3) 新株予約権の目的である再編成対象会社の株式の数

組織再編成行為の条件等を勘案の上、(1)記載の再編成対象会社の株式を1,000株割り当てる。ただし、必要がある場合には、株式数の調整を行う。

### (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、行使価額を組織再編成の条件等を勘案の上、調整して得られる再編成後払込金額に上記(3)に従って決定される当該新株予約権の目的である再編成対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。

### (5) 新株予約権を行使することができる期間

上記「新株予約権の行使期間」に定める募集新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編成行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、上記「新株予約権の行使期間」に定める募集新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

### (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金および資本準備金に関する事項

(注)5に準じて決定する。

### (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編成行為対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。

### (8) 新株予約権の取得条項

(注)7の新株予約権の取得条項に準じて決定する。

## 7 新株予約権の取得条項

当社の発行する全部の株式の内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要することについての定めを設ける定款の変更承認の議案もしくは新株予約権の目的である株式の内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要することもしくは当該種類の株式について当社が株主総会の決議によってその全部を取得することについての定めを設ける定款の変更承認の議案、当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる分割契約もしくは分割計画承認の議案、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合は、取締役会が別途定める日に、当社は無償で新株予約権を取得することができる。

## (3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成20年10月1日 ～ 平成20年12月31日	—	289,317,134	—	6,781	—	1,008

(5) 【大株主の状況】

大量保有報告書等の写しの送付等がなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、実質株主が把握できず、記載することができませんので、平成20年9月30日現在の株主名簿で記載しております。

① 【発行済株式】

平成20年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 825,000	—	単元株式数 1,000株
完全議決権株式(その他)	普通株式 286,970,000	286,970	同上
単元未満株式	普通株式 1,522,134	—	—
発行済株式総数	289,317,134	—	—
総株主の議決権	—	286,970	—

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が23,000株(議決権23個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式569株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成20年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ティアック株式会社	東京都多摩市落合1-47	825,000	—	825,000	0.28
計	—	825,000	—	825,000	0.28

(注) 株主名簿上は、当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1,000株(議決権1個)あります。

なお、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式に含めております。

## 2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成20年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	108	109	108	93	84	70	59	49	43
最低(円)	86	96	88	79	67	55	32	36	29

(注) 上記の株価は東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

## 3 【役員の様況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の異動はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、当第3四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成20年8月7日 内閣府令第50号）附則第7条第1項第5号のただし書きにより、改正後の四半期連結財務諸表規則を早期に適用しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、太陽A S G有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,369	6,027
受取手形及び売掛金	※2, ※3 5,732	※2 10,226
商品及び製品	7,453	6,798
原材料及び貯蔵品	1,940	1,698
その他	1,347	1,228
貸倒引当金	△179	△249
流動資産合計	22,664	25,730
固定資産		
有形固定資産	※1 3,618	※1 3,847
無形固定資産	395	376
投資その他の資産	1,023	1,469
貸倒引当金	△225	△223
固定資産合計	4,812	5,469
資産合計	27,476	31,199
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,140	5,843
短期借入金	5,789	6,655
1年内償還社債	40	—
1年内長期借入金	507	—
賞与引当金	287	605
製品保証引当金	366	302
返品調整引当金	168	141
その他	2,112	2,709
流動負債合計	13,412	16,257
固定負債		
社債	160	—
長期借入金	535	0
退職給付引当金	8,051	8,555
その他	63	20
固定負債合計	8,810	8,576
負債合計	22,223	24,834
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	6,781	6,781
資本剰余金	1,008	1,008
利益剰余金	1,718	1,795
自己株式	△104	△81
株主資本合計	9,403	9,503
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△6	△34
為替換算調整勘定	△4,193	△3,136
評価・換算差額等合計	△4,200	△3,170
新株予約権	28	14
少数株主持分	22	18
純資産合計	5,253	6,365
負債純資産合計	27,476	31,199

## (2) 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)
売上高	40,725
売上原価	28,963
売上総利益	11,762
販売費及び一般管理費	※ 10,678
営業利益	1,083
営業外収益	
その他	180
営業外収益合計	180
営業外費用	
支払利息	238
売上割引	198
為替差損	679
その他	155
営業外費用合計	1,270
経常損失(△)	△7
特別利益	
固定資産売却益	15
貸倒引当金戻入額	40
海外租税公課戻入	182
その他	2
特別利益合計	240
特別損失	
投資有価証券評価損	178
過年度特許権実施料	60
その他	36
特別損失合計	275
税金等調整前四半期純損失(△)	△41
法人税、住民税及び事業税	37
過年度法人税等	△30
法人税等調整額	24
法人税等合計	30
少数株主利益	4
四半期純損失(△)	△77

## 【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

当第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	
売上高	11,867
売上原価	8,289
売上総利益	3,578
販売費及び一般管理費	※ 3,391
営業利益	186
営業外収益	
その他	31
営業外収益合計	31
営業外費用	
支払利息	79
売上割引	64
為替差損	611
その他	57
営業外費用合計	813
経常損失(△)	△594
特別利益	
固定資産売却益	—
貸倒引当金戻入額	10
海外租税公課戻入	182
その他	0
特別利益合計	192
特別損失	
投資有価証券評価損	30
過年度特許権実施料	△171
その他	6
特別損失合計	△134
税金等調整前四半期純損失(△)	△266
法人税、住民税及び事業税	13
過年度法人税等	△36
法人税等調整額	△24
法人税等合計	△47
少数株主利益	0
四半期純損失(△)	△220

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間  
 (自平成20年4月1日  
 至平成20年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	△41
減価償却費	589
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△59
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△500
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△304
製品保証引当金の増減額 (△は減少)	101
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	37
受取利息及び受取配当金	△47
支払利息	238
株式報酬費用	13
投資有価証券評価損益 (△は益)	178
有形固定資産除売却損益 (△は益)	△7
投資有価証券売却損益 (△は益)	0
売上債権の増減額 (△は増加)	4,060
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,842
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,478
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△237
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△371
その他の固定資産の増減額 (△は増加)	193
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	2
小計	525
利息及び配当金の受取額	47
利息の支払額	△233
法人税等の支払額	△46
営業活動によるキャッシュ・フロー	292
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△570
有形固定資産の取得による支出	△576
有形固定資産の売却による収入	47
投資有価証券の売却による収入	1
貸付金の回収による収入	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,096
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	845
短期借入金返済による支出	△1,611
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△7
長期借入れによる収入	1,046
長期借入金返済による支出	△3
社債の発行による収入	194
自己株式の取得による支出	△23
財務活動によるキャッシュ・フロー	442
現金及び現金同等物に係る換算差額	158
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△203
現金及び現金同等物の期首残高	6,027
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△23
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 5,799

## 【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

当第3四半期連結累計期間  
(自 平成20年4月1日  
至 平成20年12月31日)

### 1 連結の範囲の変更

ティアックベルギーNV/SA、ティアック SSE LTD. は清算手続きをほぼ完了したため、重要性の観点から、ティアックベルギーNV/SAは第1四半期連結会計期間、ティアック SSE LTD. は当第2四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。ティアック上海 LTD. は清算手続きが完了したため、当第2四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。また、(株)ティアック エソテリック カンパニーは平成20年10月1日よりエソテリック(株)に社名変更しております。

### 2 持分法適用の範囲の変更

該当事項はありません。

### 3 連結子会社の四半期連結決算日の変更

該当事項はありません。

### 4 会計処理の原則及び手続の変更

#### (1) 棚卸資産の評価に関する会計基準の適用

「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成18年7月5日 企業会計基準第9号)を第1四半期連結会計期間から適用し、評価基準については、低価法から原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。

これによる当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響はありません。

#### (2) 連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱いの適用

「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(企業会計基準委員会 平成18年5月17日 実務対応報告第18号)を第1四半期連結会計期間から適用し、連結決算上必要な修正を行っております。

なお、この変更に伴う当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

また、セグメント情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

#### (3) リース取引に関する会計基準等の適用

「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成5年6月17日 最終改正平成19年3月30日 企業会計基準第13号)及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成6年1月18日 最終改正平成19年3月30日 企業会計基準適用指針第16号)を第1四半期連結会計期間から早期に適用し、所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理から通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理に変更し、リース資産として計上しております。

また、所有権移転外ファイナンス・リースに係るリース資産の減価償却の方法は、リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。

なお、リース取引開始日が適用初年度前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。

なお、この変更に伴う当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

また、セグメント情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

#### (4) 在外連結子会社等の外貨建の収益又は費用の本邦通貨への換算方法の変更

在外連結子会社等の収益及び費用は、従来、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、連結会計期間の状況をより的確に表すために、第1四半期連結会計期間より期中平均相場により円貨に換算する方法に変更いたしました。これにより、当第3四半期累計期間の売上高は3,070百万円、営業利益は257百万円増加しております。しかし、経常利益は29百万円、税金等調整前四半期純利益は27百万円減少しております。

また、セグメント情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

### 5 四半期連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲の変更

該当事項はありません。

## 【簡便な会計処理】

当第3四半期連結累計期間  
(自 平成20年4月1日  
至 平成20年12月31日)

- 1 一般債権の貸倒見積高の算定方法  
当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率を使用して貸倒見積高を算定しております。
- 2 棚卸資産の評価方法  
当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、第2四半期連結会計期間末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。
- 2 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法  
法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。  
繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)
※1 有形固定資産の減価償却累計額 9,329百万円	※1 有形固定資産の減価償却累計額 10,016百万円
※2 受取手形割引高 255百万円	※2 受取手形割引高 105百万円
※3 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行なわれたものとして処理しております。なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の満期手形を、当第3四半期連結会計期間末日残高から除いております。 受取手形 11百万円 支払手形 217百万円	※3 _____

(四半期連結損益計算書関係)

第3四半期連結累計期間

当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	
※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	
従業員給与手当	4,315百万円
賞与引当金繰入額	437百万円
退職給付引当金繰入額	△77百万円
貸倒引当金繰入額	22百万円
製品保証引当金繰入額	62百万円

第3四半期連結会計期間

当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)	
※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	
従業員給与手当	1,391百万円
賞与引当金繰入額	115百万円
退職給付引当金繰入額	△26百万円
貸倒引当金繰入額	4百万円
製品保証引当金繰入額	21百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	
※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	
現金及び預金	6,369百万円
預入期間が3カ月を超える定期預金	△570百万円
現金及び現金同等物	<u>5,799百万円</u>

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成20年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第3四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	289,317,134

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当第3四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	911,458

3 新株予約権等に関する事項

会社名	新株予約権の内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)	当第3四半期 連結会計期間末残高 (百万円)
提出会社	ストック・オプション としての新株予約権	—	—	28
連結子会社	—	—	—	—
合計		—	—	28

4 配当に関する事項

該当事項はありません。

(リース取引関係)

リース取引開始日が、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成5年6月17日 最終改正平成19年3月30日 企業会計基準第13号)及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成6年1月18日 最終改正平成19年3月30日 企業会計基準適用指針第16号)の適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については通常の貸借取引に係る方法に準じて処理を行っておりますが、当四半期連結会計期間末におけるリース取引残高は前連結会計年度末に比べて著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

当社が利用しているデリバティブ取引は、すべてヘッジ会計が適用されているため、記載対象から除いております。

(ストック・オプション等関係)

四半期財務諸表への影響額に重要性がないため、記載しておりません。

## (セグメント情報)

## 【事業の種類別セグメント情報】

当第3四半期連結会計期間(自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)

	周辺機器事業 (百万円)	コンシューマ 機器事業 (百万円)	プロフェッ ショナル 機器事業 (百万円)	情報機器 事業 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に 対する売上高	6,686	2,025	2,056	924	173	11,867	—	11,867
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	6,686	2,025	2,056	924	173	11,867	—	11,867
営業利益又は営業損失(△)	105	50	312	159	△42	585	(398)	186

当第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	周辺機器事業 (百万円)	コンシューマ 機器事業 (百万円)	プロフェッ ショナル 機器事業 (百万円)	情報機器 事業 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に 対する売上高	24,532	5,783	6,601	3,189	619	40,725	—	40,725
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	24,532	5,783	6,601	3,189	619	40,725	—	40,725
営業利益又は営業損失(△)	1,169	△85	813	526	△85	2,337	(1,254)	1,083

(注) 1 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各区分の主な製品

区分	主要製品
周辺機器事業	CD-ROMドライブ、DVD-ROMドライブ、CD-R/RW・DVD-ROMコンビ ネーションドライブ、DVD-R/RW/RAMドライブ、フロッピーディ スクドライブ、カードリーダー、ディスクパブリッシング機器
コンシューマ機器事業	iPod接続対応オーディオ機器、SACDプレーヤー、CDレコーダ ー/プレーヤー、DVDプレーヤー
プロフェッショナル機器事業	マルチトラックレコーダー、PCインターフェース/コントロー ラー、ミキサー、ギターアンプ、メモリーレコーダー/プレー ヤー
情報機器事業	航空機搭載用記録再生機器、トランスデューサー、データレコ ーダー、医用画像記録機器、通話録音機器
その他	業務パッケージソフトウェア、介護支援個別ケアシステム

3 従来、事業を周辺機器、コンシューマ機器、情報機器、その他の4区分としておりましたが、第1四半期連結会計期間より、コンシューマ機器事業から、音楽制作オーディオ機器(TASCAMブランド)事業を分離し、従来周辺機器事業に含まれていた特殊イヤホン事業を統合し、プロフェッショナル機器事業部として独立した事業としております。各セグメントの当第3半期連結累計期間の売上高については、従来の方と比べてそれぞれ、「コンシューマ機器事業」が6,575百万円減少、「周辺機器事業」が25百万円減少、「プロフェッショナル機器事業」が6,601百万円増加しております。また、営業利益については、従来の方と比べてそれぞれ、「コンシューマ機器事業」が879百万円減少、「周辺機器事業」が65百万円増加、「プロフェッショナル機器事業」が813百万円増加しております。

4 第1四半期連結会計期間より、「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載のとおり「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(企業会計基準委員会 平成18年5月17日 実務対応報告第18号)を適用し、連結決算上必要な修正を行っております。なお、この変更による当第3四半期連結累計期間の営業利益に与える影響は軽微であります。

- 5 第1四半期連結会計期間より、「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載のとおり「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準委員会 平成5年6月17日 最終改正平成19年3月30日 企業会計基準第13号）及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準委員会 平成6年1月18日 最終改正平成19年3月30日 企業会計基準適用指針第16号）を早期に適用し、所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理から通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理に変更しております。なお、この変更による当第3四半期連結累計期間の営業利益に与える影響は軽微であります。
- 6 第1四半期連結会計期間より、「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載のとおり、在外連結子会社等の外貨建の収益及び費用の本邦通貨への換算の方法について、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算する方法から期中平均相場により円貨に換算する方法に変更しております。この変更により、当第3四半期連結累計期間の売上高は「周辺機器事業」が1,821百万円、「コンシューマ機器事業」が614百万円、「プロフェッショナル機器事業」が623百万円、それぞれ増加しております。また営業利益については「周辺機器事業」が677百万円減少しておりますが、「コンシューマ機器事業」が398百万円、「プロフェッショナル機器事業」が534百万円それぞれ増加しております。

【所在地別セグメント情報】

当第3四半期連結会計期間(自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)

	日本 (百万円)	米大陸 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア他 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	5,555	3,282	1,825	1,204	11,867	—	11,867
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,348	2	1	5,550	9,902	(9,902)	—
計	9,903	3,284	1,827	6,755	21,770	(9,902)	11,867
営業利益又は営業損失(△)	528	69	53	△66	585	(398)	186

当第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	日本 (百万円)	米大陸 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア他 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	19,328	10,393	5,816	5,187	40,725	—	40,725
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	15,073	11	7	20,137	35,230	(35,230)	—
計	34,402	10,405	5,823	25,324	75,955	(35,230)	40,725
営業利益又は営業損失(△)	2,267	69	43	△43	2,337	(1,254)	1,083

- 1 国又は地域は、地理的近接度によっております。
- 2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域
  - (1) 米大陸……米国、カナダ、メキシコ
  - (2) 欧州……ドイツ、イギリス
  - (3) アジア他……マレーシア、シンガポール、インドネシア、台湾、中華人民共和国
- 3 第1四半期連結会計期間より、「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載のとおり「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(企業会計基準委員会 平成18年5月17日 実務対応報告第18号)を適用し、連結決算上必要な修正を行っております。なお、この変更による当第3四半期連結累計期間の営業利益に与える影響は軽微であります。
- 4 第1四半期連結会計期間より、「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載のとおり「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成5年6月17日 最終改正平成19年3月30日 企業会計基準第13号)及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成6年1月18日 最終改正平成19年3月30日 企業会計基準適用指針第16号)を早期に適用し、所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理から通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理に変更しております。なお、この変更による当第3四半期連結累計期間の営業利益に与える影響は軽微であります。
- 5 第1四半期連結会計期間より、「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載のとおり、在外連結子会社等の外貨建の収益及び費用の本邦通貨への換算の方法について、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算する方法から期中平均相場により円貨に換算する方法に変更しております。この変更により、当第3四半期連結累計期間の売上高は「米国」が1,200百万円、「欧州」が1,100百万円、「アジア他」が769百万円それぞれ増加しております。また営業利益については「米国」が981百万円、「欧州」が510百万円、それぞれ増加し、「アジア」は1,233百万円減少しております。

【海外売上高】

当第3四半期連結会計期間(自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)

	米大陸 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)
I 海外売上高	3,512	2,383	2,620	145	8,661
II 連結売上高	—	—	—	—	11,867
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	29.6	20.1	22.1	1.2	73.0

当第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	米大陸 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)
I 海外売上高	11,455	7,433	11,237	337	30,463
II 連結売上高	—	—	—	—	40,725
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	28.1	18.3	27.6	0.8	74.8

- (注) 1 地域は、地理的近接度により区分しております。
- 2 各区分に属する地域の内訳は次のとおりであります。
- (1) 米大陸……米国、カナダ、メキシコ
  - (2) 欧州……ドイツ、イギリス、フランス、イタリア、ベルギー、スペイン及びロシア他欧州諸国
  - (3) アジア……台湾、韓国、中華人民共和国、シンガポール、インドネシア、タイ及びその他のアジア諸国
  - (4) その他……オーストラリア、ニュージーランド及びその他の地域
- 3 海外売上高は、親会社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高の合計額(ただし、連結会社間の内部売上高を除く)であります。

## (1株当たり情報)

## 1 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)
18.04円	12.54円

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎

項目	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	5,253百万円	6,365百万円
普通株式に係る純資産額(百万円)	5,202百万円	2,806百万円
差額の主な内訳(百万円)		
優先株式の残余財産分配額	—	3,250百万円
優先株式の累積未払配当金	—	275百万円
少数株主持分	22百万円	18百万円
新株予約権	28百万円	14百万円
普通株式の発行済株式数(千株)	289,317千株	224,317千株
普通株式の自己株式数(千株)	911千株	536千株
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数(千株)	288,405千株	223,781千株

## 2 1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益

## 第3四半期連結累計期間

当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	
1株当たり四半期純損失	0.27円

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
2. 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎

項目	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)
四半期連結損益計算書上の四半期純損失(百万円)	77
普通株式に係る四半期純損失(百万円)	77
普通株式の期中平均株式数(千株)	288,625千株
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含まれなかった潜在株式について前連結会計年度末から重要な変動がある場合の概要	重要な変動はありません。

### 第3 四半期連結会計期間

当第3 四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)	
1株当たり四半期純損失	0.76円

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載していません。
2. 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎

項目	当第3 四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)
四半期連結損益計算書上の四半期純損失(百万円)	220
普通株式に係る四半期純損失(百万円)	220
普通株式の期中平均株式数(千株)	288,433千株
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含まれなかった潜在株式について前連結会計年度末から重要な変動がある場合の概要	重要な変動はありません。

#### (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年 2月10日

ティアック株式会社  
取締役会 御中

太陽A S G有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 野辺地 勉 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大村 茂 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているティアック株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ティアック株式会社及び連結子会社の平成20年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 追記情報

セグメント情報の「事業の種類別セグメント情報」の（注）3に記載の通り、会社は第1四半期連結会計期間より事業の種類別セグメント区分を変更した。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- （注） 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。